

■公共図書館での実践事例

初めて取り組むマルチメディアDAISY図書の普及活動 —地域の障害者サポートセンターや大学とも接点をもってみよう

栃木市大平図書館
石原 均

はじめに

栃木市大平図書館は、旧大平町立図書館時代から「障害者サービス」の充実に取り組んでまいりました。ボランティアの長年にわたるご協力により、点字資料の寄贈は、約900点に至りました。

また、市内に在住する身体の障害や高齢などの理由により、図書館に来館することが困難な方に対し、無料で「宅配サービス」も実施しています。これだけでも、多くの公共図書館のなかでは、当館のサービスの優位性を感じておりました。

そんななか、2016年4月1日「障害者差別解消法」が施行され、合理的配慮をしないことが差別であるということが条文化されたことは、皆さんがご存じの通りです。

これをきっかけに、既存の障害者サービスの他に何ができるのか、強い関心と使命感を感じ、目標を立て実行したいと思うようになりました。ここから悪戦苦闘の日々が始まることにな

り、現在も続いています。いまだに大きな成果を残しておりませんが、これから「わいわい文庫」を活用し、障害者サービスに着手しようと考えている公共図書館の一助になればと思い、寄稿いたします。

悪戦苦闘の日々

初めに取り組んだことは、「障害者」を知ることからでした。図書館が所蔵している関連資料を読み、実際に「障害者サービス」を実施している新宿区立戸山図書館を視察し、自館でできることを選別していきました。

栃木県立盲学校・聾学校に直接伺い、図書館ができるサービスがあるかどうかの聴き取りを何度か行いました。両校の子どもたちに共通していることは、健常者よりも読書量が圧倒的に多いということです。

栃木県立盲学校の教頭先生からは、弱視者のために「大活字本」を大平図書館で製作してほしいという要望がありました。これは、大人向けの活字

本は出版増が図られておりますが、子ども向けは遅々として進んでいないことから要請されたものです。

教科書の大活字本が一冊数万円以上、ものによっては一冊10万円超の経費をかけて発注しているのが現状です。それでも、作成に対応できない出版社の教科書は、教師が手書きで作成しているのが現実です。

また、聾学校の生徒からは、「名探偵コナン」が好きだけど、TVやDVDアニメは、口の動きが実際と違うので観ないと聴きました。障害者のことを知らない自分自身を知り、これがバリアフリー映画の上映会の実施につながっていきました。

同時に、日本語字幕スーパーと副音声ガイドのあるDVDの作成に、図書館界は努めるべきではないかと強く感じるようになりました。

次に、寄贈いただいた「わいわい文庫」の活用は、戸山図書館の事例に学びました。当館の場合は、「障害者サービス」を専属で担当するスタッフの確保が難しいため、私とフォローするスタッフの1名が兼務で推進を図っております。

初めに、盲学校にアプローチを図りましたが、学校側のハード面、つまりパソコンやプレクストークを相応に保有していないため、「わいわい文庫」の活用が図れておりません。

学校からは、図書館がタブレット端末やプレクストークを提供してくれることを要望されましたが、図書館の備品予算のなかで用意することは難しいのが現状です。聾学校は、現状の活字資料で相応に充足しており、マルチメディアDAISY資料導入に至っておりません。

この時点で、「わいわい文庫」の普及の対象を、聴覚や視覚の不自由な児童から、発達障害者や学習障害者、ディスレクシア、肢体不自由のある子どもたちへと方向転換を図りました。

そのきっかけとなったのは、宇都宮大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻の原田浩司准教授と知り合えたことです。先生は、特別支援教育に長年携わってこられた方です。一人で悪戦苦闘している私のうわさが先生に伝わり、お会いし相談できたことで、当館の「障害者サービス」を支援していただけることになりました。

原田先生から、学習障害に理解のある先生や学校を紹介していただき、アプローチ先が明確になり、普及のノウハウも教えていただきました。

マルチメディアDAISY資料の普及で悩んでいる図書館は、お近くの大学で学習障害などを研究されている先生に相談されてはいかがでしょうか。有効な情報が得られるはずです。大学は公共図書館にも門戸を開いてくれます。



図書館内でのマルチメディアDAISY体験コーナー1



ひとりでも



図書館内でのマルチメディアDAISY体験コーナー2



大勢でも

マルチメディアDAISY図書の活用

1. 栃木県立栃木特別支援学校

勤務されている先生方を対象にマルチメディアDAISY資料（「わいわい文庫」・マルチメディアDAISY教科書サンプル）の説明会を実施いたしました。パソコンと「わいわい文庫」のインストールされたデモ用iPadを持ち込み、先生方に実際に操作してもらう体験の場を設けました。



読書を通して楽しく学ぶ

（1）活用実態

「わいわい文庫」ディスク、サンプル版マルチメディアDAISY教科書、デモ用iPadを約3か月間、貸し出しました。対象は、肢体が不自由な小学生としております。

① サンプル版マルチメディアDAISY教科書の活用

- ・ 小学部 5 年生 重複障害学級 課程 1 児童が使用
- ・ 合成、分解について学習しましたが、DAISYに興味を示し、学習に意欲的に取り組むことができました。

② マルチメディアDAISY図書（「わいわい文庫」）の活用

- ・ 小学部 4 ～ 6 年生 重複障害学級課程 1 児童が使用。
- ・ ポータブルDVDプレイヤーでは画面が小さくて見づらいため、テレビ画面で再生し、数人の子どもたちに分けて視聴しました。楽しんで視聴することができたと思います。

③ iPadの活用

- ・ 小学部 1 ～ 6 年生 重複障害学級 課程 1 課程 2 児童を対象に、教室ごとに 1 週間ずつ使用。
- ・ 使い勝手が良く、使用したすべての学級で好評でした。子どもが指で操作できること、絵本を自由に選べること、選んだ後は読んでくれること、話の内容が興味をもちやすいこと、視聴覚を使って楽しむことができるなど、好評でした。
- ・ 進行性の病気を有する子ども 2 名にとっては、小さい力で自由に楽しめるため、とても気に入って視聴して

おりました。6年生の子どもは、授業時間以外の休憩のときも借りて楽しんでいました。

④ 今後の課題

- ・ iPadが大変好評でしたが、図書館からは1台しか貸出できない状況でした。あと3～4台貸出してもらえらば、数人が並行して学習ができるとの要望が学校側からございました。
- ・ ウルドゥ語やスペイン語で生活している子どももいるため、多言語でのマルチメディアDAISY図書があれば良いとの意見がございます。

2. 栃木市こどもサポートセンター

栃木市には、心の成長や発達に何らかの課題をもつ子どものためのサポートセンターがあります。医師、保健師、臨床心理士、言語聴覚士などがセンター協力委員として働いており、「ことばの教室」を開催しています。この教室には約100名の未就学児童が参加しています。まだ双方で話し合いがスタートしたばかりであり、実績は残っておりません。

(1) 活用の方向性

- ・ 栃木市こどもサポートセンターに「わいわい文庫」を貸出し、ことばの教室で利用促進を図りたいと考えています。視聴覚室があり、プロ

ジェクターを使ってDVD上映が可能な施設となっています。

- ・サポートセンター内でDAISY資料の説明会を開催し、児童の父兄に資料の優位性の理解を図りたいと考えています。
- ・サポートセンターを介在することで、小中学校の特別支援学級への個々の折衝プロセスが省力化できるのではないかと考えています。
- ・「わいわい文庫」を物語ごとに小分けしていただけたら、使い勝手が良いという要望があり、それに対応する予定です。

今後の取り組み

マルチメディアDAISY図書の普及に取り組んで2年弱経過しました。障害者サービスが軌道に乗るまで7～8年かかると聞いておりましたが、確かにその通りかもしれません。

この間の普及活動のなかで、宇都宮

大学大学院の原田浩司先生と知り合えました。先生の出版された『すべては子どもたちの学びのために』を読むと勇気づけられます。

長年、特別支援教育を研究されてきた先生は、次のように力説しています。“マルチメディアDAISYが世界中の読み書き障害のある人々にもたらした恩恵は、計り知れないものがあります。独自のカスタマイズを行うことも可能です。”

また、先生からご紹介いただいた大学で図書館学を教えていた沖田克夫氏の言葉も刺激的でした。“すべての図書館司書はDAISY資料がつくれなければならない。”

活動のなかで、読み書きの苦手な子どもが多いことを知りました。DAISY資料を適宜活用し、多くの子どもたちのために読書支援を行っていきたいと考えています。